

「スーパージュニア選手育成プログラム2025」 ファイナルトライアル

令和8年1月18日（日）に、広島県立総合体育館小アリーナにおいて今年度最後のプログラムとして、体のバランストレーニングと運動適性テストを行いました。

まず午前は、第1回体験プログラムでも実施した「体のバランストレーニング」で、講師は第1回と同じく、一般財団法人日本コアコンディショニング協会の竹原亮紀マスタートレーナーです。

体の軸・重心を安定させるトレーニングや、効率的な身体の動かし方などを教えてもらいながら実践しました。

特にスポーツをする上で大切なコア（腹筋・背筋など）を鍛えるトレーニングは、一見激しい動きには見えませんが、全身を使った運動なので選手たちからは「きつい！」と悲鳴があがります。

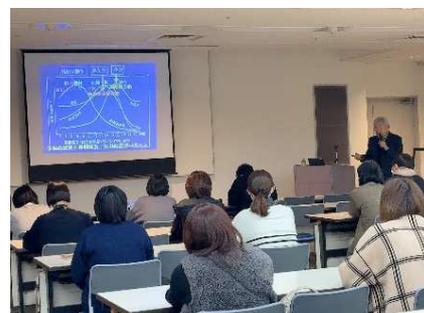
第1回に行ったトレーニングもあり、選手たちは前回のプログラムの自分の身体との変化を実感することができたのではないのでしょうか。今回も、平均台や跳び箱、マットなどを使ったトレーニングも行い、跳んだりしゃがんだり、行ったり来たり、上下左右に俊敏に動く動作に息を切らしながらも、一生懸命取り組んでいました。

自分の身体を思うように操る技術（コアの使い方）は、どのスポーツをするにも重要になるので、教わったことを継続して実施してくれると嬉しいです。



今回の保護者を対象に行った最後のサポートプログラムは、スポーツ医・科学委員会副委員長の村上恒二先生による「ジュニア期スポーツ障害と予防」の講話でした。

先生のこれまでの医療活動のご経験を踏まえ、子どもの骨や関節等の特徴からジュニア期に起こりやすい障害の具体的な症例や使い過ぎ症候群についてお話いただきました。また、スポーツ障害の予防や対策についても学び、参加した保護者も熱心に聞いていました。



午後は、この育成プログラムの締めくくりとして、5月に行ったトライアルと同じ内容の運動適性テストを行いました。上体起こし、立ち幅跳び、長座体前屈、40m走、ソフトボール投げ、20mシャトルランの6種目を実施し、自分の記録を確認しました。今回の測定結果は、5月のトライアル時と比較できる形で各選手に返却されますので、届いたら自分の記録を確認して成長を感じてみてください。



閉会式では、プログラムの修了証が交付され、スーパージュニア選手育成プログラム2025は完了しました。

今年度は計8回のプログラムを通して9競技を体験することができました。色々な技術を習得しやすい「ゴールデンエイジ」と呼ばれる小学校高学年の時期に、多くのスポーツと仲間に出会うことができたのは、選手の皆さんにとって貴重な経験になったと思います。これからも多くの体育・スポーツのイベントに積極的に参加して、自分の特性を磨いていかれることを期待します。

また、保護者の皆様は、引率、サポートプログラムへの出席等、ご協力ありがとうございました。スポーツ選手の育成には、家庭でのサポートが欠かせません。このプログラムで得られたことを活かしていただき、子どもたちの成長をしっかりと見守っていただきたいと思います。

最後になりましたが、今年度も広島県小学生体育連盟の先生方、T & T W A Mサポート株式会社のトレーナーの方など、多くの方にご支援・ご協力いただきましたことに深く感謝申し上げます。

